



# 保育現場の超具体的安全戦略!

第10号

## 食べ物や小物の「詰まる」を防ぎましょう



所 真里子



日本子ども学会常任理事、ISOガイド50(子どもの安全の指針)JIS原案作成委員会委員、保育の安全研究・教育センター設立メンバー。家政学修士(日本女子大学)。子どもの安全の専門家として研修講師、調査研究等を行っている。

今号は、これからの季節の大きな危険、「詰まる」です。子どもたちが楽しく年末年始を過ごすことができるよう、安全な環境を作っていきましょう。

### 詰まったら取れない！食べ物の特徴

食べ物が喉(気道上部)や気管(食道との分かれ道以下)をふさぐと窒息します。喉に詰まりやすい食べ物の特徴を知っておきましょう。

**丸いもの**  
(切り口が円)

アメ、ブドウ、  
輪切りのソーセージ、  
ミニトマトなど

**ツルっと喉の奥に  
入ってしまうもの**

豆類、  
カップゼリー、  
ウズラ卵など

**粘り気のあるもの、  
弾力のあるもの**

餅、白玉、  
パン、  
コンニャクなど

**噛み切れないもの、  
砕けないもの**

肉類、イカ、キノコ類、  
たくあん、節分の豆や  
ナッツ類など

気管は狭いので、  
小さなかけらであっても  
吸い込まれれば  
ふさがることがあります。



### もし詰まってしまったら？

すぐ  
119番

何かを詰ませたことに気づいたら、すぐに119番をしてください。強くせき込んでいる時は、それで取れるかどうかを見ます。せき込みで取れない、またはせき込みができない時は…



ぐったりしてしまったら、救急隊が到着するまで心肺蘇生(胸骨圧迫と人工呼吸)を続けます。

詰まったものが取れても、1や2を行った時は内臓を傷めていないか、必ず受診してください。



【子どもが何かを口に入れていたら…】大きな声を出さないで。驚いた拍子に息を吸い込み、口の中のものを吸い込んでしまうおそれがあり、大変危険です。静かに近づき、優しく「あ〜んしてみても」など声をかけて、取り出しましょう。

### クリスマスやお正月の飾り物は要注意

クリスマスツリーや年末年始の飾り物には、小さな部品が多く使われています。キラキラ光るパーツは特に子どもの興味を引きまします。何でも口に入れる時期が過ぎるまでは、小さい部品や飾りを使わないようにしましょう。



### プレゼントは対象年齢にあったものを選ぶ

玩具にはたいてい対象年齢が書かれています。子どもの年齢よりも上のものを与えていませんか？ 対象年齢には「安全に使える年齢」という意味もあり、たとえば「3歳未満を対象にした玩具には小さな部品を使ってはいけない」等の安全基準があります。贈り物をあげる時ももらった時も、対象年齢を確認しましょう。

